

2018年4月2春の例会 案内 by 牛込オーディオ友の会事務局 (4月11日版)

第一部: 2way スピーカーを中心に聞き比べる

最初の行の SEAS + ScanSpeak は私どもの中でも長い間、疲れたときはこのスピーカーに良いアンプにして耳をリセットするスピーカーシステムとして長年利用していた。これを一つの基準として最近のユニット、あるいはロングセラーのユニットの 2way での特徴を聞き比べ。試聴構成は PC(LINUX/mpd)→(USB)→USB Isolator(Intona 7054X)→Rockna Audio WaveDream DAC (最上位機種)→NCore400 デジタルアンプなどで。

ウーファ外観	ウーファ特徴	トゥイーター外観	トゥイーター特徴	システムとしての特徴	N/W
	SEAS ER15RLY 特殊な紙コーンのミッドバス13cmクラスというのが適当な大きさ。やソフトではあるが十分な分解能を持つ。素直で使いやすいミッドバス。		Scan-Speak D2905/9700-00 Scan-Speakの超ロングセラーのトゥイーター、29mmのソフトドームで磁性流体を遣わずニアでストレートな音質。現代でも十分通用する。	とがったところはなく、重低音も出ない。でも紙コーンとソフトドームで音楽を聴くのに破綻なく必要なだけの分解能とレンジも合わせ持つ小型万能2way。箱はDayton 7.5リットルのもの。	LCR
	Morel MW114S イスラエルのハイエンドメーカーの小型高級ユニット11cmネオジ磁気回路でボイスコイルは54mm径と大きい。すっきりした分解能が高く歪の少ないミッドバス。		Accuton(Thiel&Partner社)のCellタイプトゥイーター。同社の特徴である逆ドームでブレイクアップも20KHz近くと高い。分解能高く、しかもセラミック型でありがちな付帯ノイズもほとんどない。クリアです。	5リットルくらいで動作するウーファで下は出ないが非常に分解能高く、中高域のレンジは非常に広く、歪が少ない。ウーファを400Hz以下でクロスさせれば質の高い3wayにもアップグレードできる。	LCR
	WaveCor WF152BD03 15cmのウーファ特徴に書いたように創業者とのメールのやり取りから興味を持ち、採用してみた。WaveCorの製品としてまずは15cm紙コーンミッドバスで2way。		WaveCor TW30A13 最上位機種ソフトドームTW。聞くとやや太目で芯のある音造りだ。繊細さとか分解能の点は上の機種のほうが良い感じがする。耐入力は高そうなので、ガンガン鳴らすには良さそうだ。	WaveCorの創業者 Allan Isaksenは古い友人。一時期Scan-Speakのアジアの代理人だった。DACTなどの会社も保有している。その背景でWaveCorは妥当な価格のハイエンドを目指したという。	LCR
	ATD社製 18W4004 AG-Ti 18cm チタンコーティングの強力ウーファ。マジコの2wayの衝撃的デビューのスピーカーにも搭載されていた。今回の展示の中ではほぼ1本10万円と最も高価なユニットである。		LCY社製デュアルリボンTW 2kHz~50KHzという広帯域を誇る、まさにハイレン時代にぴったりのリボンTW。香港製とは言うものの、長い経験(30年以上)と二代に亘る改良で優れた音質と繊細さに力感もある。	市場ではスピーカーシステムとして香港製のせいかわ注目は集まりにくい。カナダ・USを中心に地道に売れているVolent (HK)の製品。価格はUSでもUS\$6000/ペア以上する高級ハイエンド2wayシステムです。	LCR
以下=マルチアンプ駆動予定。					
	ETON 5/212 ETONはAvalonの上位機種やArtemis EOSのミッドバス、ウーファとして採用されているハイエンドユニット。5/212はその系譜を継いだ比較的リーズナブルな価格の5インチミッドバスです。ケブラー系のコーンが特徴。		Airborne RT4001 エアモーショントゥイーター。モニタースピーカーのADAMやElacなどにも似たタイプのトゥイーターが使われている。高級機はMundorfで中級機はDaytonなどがあるが、これは最安値に近い(1本1万円以下)。うまく鳴らすと上位機種をかもれるか?価格にしては繊細な音質です。	Digi-keyで2000円以下だが旧Vifaの5cmのフルレンジ。紙コーンの素直なフルレンジで150Hz~20KHzまではほぼフラット。それを500Hzくらいから4KHzくらいまでのミッドレンジとして使い、小型2wayが急にボーカルは質感の高い3wayになる。もちろん20cm~25cmくらいの本格的ウーファとTWで本格的3wayもできる。	Vifa TC6FC00

その他、Facebook で活躍されている方の SATORI の 2way も登場予定。今回はトゥイーターはなんと SATORI のベリリウム+ネオジ磁気回路の TW29BN-B で登場します。果たして LCR ネットワークになるか、はたまたマルチアンプ駆動となるのかはお楽しみに。下左が SATORI MW16P-8、下右が TW29BN-B ベリリウム TW です。



第二部ではマルチアンプを低価格に構成できるシステムとして HDMI のアダプタ(Audio Extractor)や AV アンプ(古い SONY の TA-DA3200ES です!)を利用した LINUX/mpd/ButeFIR 利用の Linear Phase マルチアンプシステムを公開します。

特に興味がある方にはスピーカー自作派にはフィルターの設計(re:Phase による設計)、フィルターを利用したときの測定、タイムアライメントの測定と調整方法についても時間の許す限り、Q&A と実演でお答えします。